

〔報道〕

### 「パレットの感激二篇」

『東京日日新聞』 昭和十三年四月八日 (36)

(四月) 七日入選を発表した春陽会、国画会両展覧会に咲いた二つの感激篇がある。一つは昨年上海戦線において名譽の戦死を遂げた上岡巳平少尉の遺作が友人の手を通じて春陽会に出品、みごと入選したのと、イタリヤ大使館通訳官メルヂェー氏が国画会に出品して初入選の栄を得たといふ絵による日伊親善佳話。



〔制作にはげむ在りし日の上岡巳平氏〕

江南の華・上岡少尉 遺作に薫る譽れ  
春陽展に二点も入選

故上岡少尉は愛媛県喜多郡五十崎出身で、昭和八年早大高等師範部国文科を卒業したが、在学中好きな絵の研究に春陽会研究所に通ひ当時二回入選したことがあつた。その後は郷里に帰り五人兄弟の長兄として青年学校の教員をやつてゐたが、事変勃発と共に出征、昨年九月廿七日羅店鎮の攻

略で名譽の戦死をとげた。これを知つた在学時代の親友、京橋区八丁堀四の三岡谷方 高木勇次氏は是非遺作を春陽会展に飾りたいと思ひ立ち、故人の弟大衛君が受験のためこの三月上旬上京したのを機会に打合せを行ひ、君は帰京の上近所の独立美術協会常連出品者があるのでその人を選び出してもらつた四点を、高木氏に送つて上岡美平のペンネームで出品手続きを依頼、そのうち二点(遺作(1)遺作(2))が入選したものである。入選発表の七日夜高木氏は感激を涙ぐみながら語る。

「僕と上岡君とは学生のとよからの親友でした。昨年出征したのを知り部隊名を聞き合せたところ、その返事は名譽の戦死をしたといふので驚き、上岡君の友人五人でパレットに署名して壺前におくりました。何とかして彼の絵を展覧会に出したいと骨を折つたのですが、入選できたことは僕自身が入選したことよりずっと嬉しいです。」

なほ春陽会の入選者のなかで目下戦地に活躍中の人々は、林芙美子さんの夫君で北支にある手塚緑敬氏をはじめ、上海方面の原精一、佐野八郎両氏等があり、昨年新入選した変り種作家 佐藤春夫氏は今回も無事にパスし、腕前に一段の進境を見せた。国画会では絵画の福井敬一氏と新入選 八里茂

子さんが揃つて紀伊國屋書店の店員。彫刻新入選の西常雄氏は、オリムピック馬術選手で有名な西大尉の令弟である。

\*



【伊大使館通譯官サルバトウレ・メルヂェー氏】

伊大使館通譯官

国展にも入選 繪畫に結ぶ日伊親善

国画会に初入選の榮を獲得したイタリア大使館通譯官サルバトウレ・メ

ルヂェー氏は、故国イタリアで有名なイオリス、テイラテツリ、ラリーア三画伯を師として、永らく画道に親しんだ人だけに素人の旦那芸とはちょっと違ふ。今回の出品も昨年十月来朝以来初めての出品。「フロレンス」「アヘンを飲む女」の二点がみごと入選したもので、この喜びをメルヂェー氏にもたらずと、ファシストの敬礼で答へた後、ニコ／＼しながら鮮やかな日本語で語る。

「今回出品した二品は、フロレンスといふ名の女と、故郷を背景にして支那服を着て阿片を喫ふ女です。ローマでは度々画展に入選し、日本でも五年前友人を通じて春陽展に出品した肖像画が入選(\*1)したことがあります。来朝して初めての出品が入選したのは、何といつても大変嬉しいです。日本の風物はとても綺麗です。私は日本がとても好きで満州事変当時ローマの各新聞紙上に下位春吉(\*2)先生から戴いた「雪野暁紅」の号で執筆しました。私の好きな画を通じて日本の皆様と親しくなることはとても嬉しいと思ひます。」

(\*1) 昭和九年―第十二回春陽会展に《コマンダトウレ・シモイの像》《或日のコマンダトウレ・シモイ》《モンテ・パラティノ(羅馬)》を出品し、入選展示される。

(\*2) 下位 春吉(しもい はるきち、一八八三年―一九五四年) 教育者、詩人、童話口演家。詩人ガブリエーレ・ダンヌンツィオ等と親交があり、イタリアのファシズム運動を日本に紹介。

1938 8 April

昭和 13 年 第 16 回春陽展 報道「パレットの感激二篇」 東京日日新聞 (4/8)